



特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

2012年度 事業報告

1. グッド・トイ選考事業

担当理事:善本眞弓

「グッド・トイ2012」として21点選定

地方選考会も実施。全国の会員が関る選考制度へ



「グッド・トイ2012」	5/3.4	トイコン・一般投票会(イオンモール盛岡)
	5/12.13	〃 (東京おもちゃ美術館)
	5/19	最終選考会
	6/9	選定証授与式
「グッド・トイ2013」	10/22	応募受付開始
	12/2	第一次選考書類審査
	3/17	投票用冊子を会員へ送付

2. 移動おもちゃ美術館事業

担当理事:曾我部晃

北海道から沖縄まで全国で開催

新宿「森のおもちゃ美術館」大盛況

「木育キャラバン」の開催依頼が大幅増。「グッド・トイキャラバン」と合わせ、例年よりも数多く開催された。また、NPO 法人宮崎文化本舗運営用が「木育キャラバン」新セットを所有し、さらなる開催増にも対応が可能となる。

【開催】 日程、催事名、会場、参加人数 <林>は林野庁補助事業 <M>は宮崎文化本舗主催

5/3~5 「グッド・トイキャラバン in 横浜」(横浜そごう) 2,100名 協力:神奈川グッド・トイ委員会

5/18~20 「ロハスデザイン大賞 2012 新宿御苑展 森のおもちゃ美術館」(新宿御苑) 100,000名

7/14~15 「木育キャラバン in 沖縄」(沖縄大学)協力:沖縄グッド・トイ委員会 2,700名

7/28~29 「木育キャラバン in 福岡」(アクロス福岡) 1,500名

8/5~6 <林> 「木育キャラバン in ぎふ」(じゅうろくプラザ)協力:岐阜グッド・トイ委員会 2,000名

8/18~19 「木育キャラバン in 鳥栖」(スーパーセンターイズミ鳥栖店) 1,500名

9/1 「木育キャラバン in 国立」(くにたち市民芸術ホール) 350名

9/15~17 「木育キャラバン in 塩尻」(塩尻市子ども広場あ・そ・ぼ) 3,000名

9/29~30 「グッド・トイキャラバン in 北見」(ビッツアークホテル) 1,000名

10/20~21 「エコライフフェアとうほく」(夢メッセみやぎ) 1,000名

11/27~18 <林> 「木育キャラバン in 弘前」(岩木文化センター) 1,700名

12/8~9 <林> 「木育キャラバン in 大分」(パークプレイス大分) 2,000名

1/3~2/3 <宮> 「森のおもちゃとアート展」 協力:宮崎グッド・トイ委員会 11,830名



3. 子育て・世代間交流事業

①子育てサロン「おもちゃの広場」 担当理事：石井英子

北海道から沖縄県まで、全国 183 カ所で開催。使用するおもちゃのグッド・トイの割合も増やした。乳幼児向けのおもちゃだけでなく、親自身が楽しめるおもちゃも充実させた。



②東京おもちゃまつり 担当理事：多田純也、曾我部晃



開催日：11月10、11日

会場：東京おもちゃ美術館＋四谷ひろば

来場者数：約6000名

年に一度の遊びとおもちゃの祭典。本年度の開催は、校舎内と体育館だけでなく、新たに校庭も会場に加えた。そのため開催スペースが大幅に広がり、前年度の課題であった混雑状況緩和および同時に、出展内容の充実を行うことができた。面積拡大によ

り、パティシエなどによる「グッド・トイカフェ」を新たに導入できたことで、体験だけでない総合イベントになることができた。また、おもちゃコンサルタントによる「遊びとおもちゃの縁日」のスペースも広げられ、例年よりも多くの出展者を受け入れることができた。運営サポーターを組織化。おもちゃコンサルタントやインターンが事前に集まり、よりよい運営方法を検討・確認するなどでき、当日の運営もスムーズに行えた。

（「第3回森のめぐみの子ども博」も同時開催。林野庁及び「積水ハウス マッチングプログラム」より助成）

4. 病児の遊びとおもちゃ委員会

担当理事：荻須洋子／二瓶健次

《活動地》国立成育医療研究センター「おもちゃライブラリー」・順天堂大学医学部附属順天堂病院・神奈川県立こども医療センター・中川の郷療育センター・千葉大学医学部附属病院・杏林大学医学部付属病院

10月21日には、広くボランティアを募集するための研修会を行った。また3月2日には国立成育医療研究センターでの第8回公開セミナー「病児の遊びとおもちゃケア」を行った。基調講演には東京大学先端科学技術研究センター准教授渡邊克巳氏を迎え、「認知心理学から見た〈あそび〉」について話をうかがった。また、活動報告では病児の家族が発表するなどの新たな試みも見ることができ、盛況のうちに幕を閉じた。

また病院専用の移動型おもちゃ美術館「ホスピタル・トイ・キャラバン」については、国立国際医療研究センター（東京都）、東京女子医科大学病院（東京都）、千葉大学附属病院（千葉県）、豊橋市民病院（愛知県）で開催した。

P6に、委員会報告資料有。

5. おもちゃの専門家育成事業

担当理事：宮森美里／稲葉恭子

①おもちゃインストラクター養成講座

認定者数：1957名（52会場にて開催）

2日間で手作りおもちゃの指導法等を学ぶ初級講座。多くは全国の幼児教育・保育系学校で開催されている。9つの学校が新たに開催校に加わり、新しい講師陣も積極的に育成に関わっている。

②おもちゃコンサルタント養成講座

申込者数 通学の部 119名 通信の部 127名

開講25周年を記念し、キャンペーンを実施。受講者数増を図った。結果、通学の部は、ほぼ定員に達した。

また、通信教育のスクーリングは3回実施。全国各地から様々な背景を持つ受講生が集まり、おもちゃコンサルタントとして認定を受けた。資格取得後、当会の活動へ参加してもらえるよう積極的な働きかけも行った。

③おもちゃコンサルタントマスター養成講座

開催日:6月16・17日 会場:東京おもちゃ美術館 認定者数:12名

同講座を2年ぶりに開催。マスターの存在を「おもちゃを通じた地域活動のリーダー」と位置付けし、受講にはポイント制の導入、講座内では研究成果の発表を実施した。

6. 出版・編集事業

担当:近藤亜美

『グッド・トイガイド 2012-2013』7月発刊 特集:新選定グッド・トイ発表 他
『おもちゃで遊ぼう』18号 3月発刊 特集:手づくりおもちゃ道具と素材 他
選定玩具をより多く方に知ってもらうため、グッド・トイ発表号をフリーペーパー化。「グッド・トイガイド」として、「おもちゃの広場」などを通じ広く頒布した。また、従来型の18号は、特集の他にグッド・トイ委員会の活動紹介の場とした。



担当理事:竹田ひとみ

7. 地域グッド・トイ委員会



支部長会議を5月12日に行い、各支部の活動の報告及び課題について協議した。また本部との連携を強めるために、事務局スタッフ及び理事を各地域へ積極的に派遣、また東京おもちゃまつり、グッド・トイ選考事業への支部としての参加促進、グッド・トイキャラバンやおもちゃインストラクター養成講座の支部開催等、各地域での活動活性化としても役立ててもらえるようにした。

※ 各地域の委員会と代表は 19 ページ参照。

8. 東京おもちゃ美術館事業

担当理事:宮森美里/菊池貴美江/春日明夫

初の12万名以上の来館者数を記録
木育ひろばで注目度増す

① 入館者数

	入館者数	前年度比
大人	69,318名	102%
子ども(3歳以上)	25,820名	85%
“(2歳以下)	27,335名	128%
合計	122,473名	102%



② おもちゃ学芸員

登録者数 249名(2013年3月現在)うち、男性61名、女性188名。

本年度は70名が新規登録をおこない、そのうち36名はおもちゃ学芸員養成講座を受講しての登録。

おもちゃ学芸員養成講座 13期-6月26~27日、14期-12月1~2日

③ 企画展

第8回企画展『優しさが色になり 温もりが形になる 木の玩具展』4月7日～9月30日

第9回 “ 『木のおもちゃ20作家展』10月8日～11月20日

第10回 “ 『アメリカの古き良き時代のおもちゃと日本のおもちゃ展 春日コレクション展パート3』11月28日～3月31日

④ 赤ちゃん木育ひろば

また、木育の効果について、埼玉大学浅田教授の協力を得ながら、調査を行い、3月末に報告書が出された。なお、デザイン及びボランティアなどの運営面も各方面から高い評価を受け、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞優秀賞、ロハスデザイン大賞、木材活用コンクール特別賞などを受賞した。本年度で新宿区NPO協働事業提案制度の助成は終了する。

⑤ 東京おもちゃ美術館コンセプト会議

オープン5年目を迎えるにあたり、現在の入館者の状況、おもちゃ学芸員の意見等を取り入れながら、今後の美術館の在り方について協議を進める場を設定。各展示室のあるべき姿について検討を行い、11月に報告書が館長宛に提出された。そこでは、美術館のコンセプトを「ファミリーコミュニケーション」「多世代の交流が広がる」「おもちゃと遊びの場づくり」「地域のみんが参加する」の4つにまとめられ、各展示室の現状と課題が報告されている。これを受けて報告書に基づき、館内のリニューアルを行うこと、おもちゃ学芸員システムの再構築を図ることが言及された。

9. 木育推進事業

担当理事：多田千尋

全国各地で木育の意義を伝え、
赤ちゃんからお年寄りまでの生涯木育を目指す

① 「木育の実践活動の推進」(林野庁補助事業)

今年度も林野庁補助事業「日本を森林で元気にする国民運動総合対策事業」のうち「木育の実践活動の推進」を受託。赤ちゃん木育広場・寺子屋は、新たに20団体が加わり、全国100カ所で開かれることとなる。また、100カ所を記念し、活動報告会も実施した。

- ・木育キャラバン及び木育円卓会議の実施(青森県・岐阜県・大分県)
- ・第3回森のめぐみの子ども博の開催(東京おもちゃ美術館)
- ・全国「赤ちゃん木育広場・寺子屋」の開催(全国20カ所)及び「赤ちゃん木育広場サミット」の開催(9月9日)
- ・ウッドスタート事業推進のための取組
- ・木育プログラムの実施と効果測定(岐阜県美濃市)
- ・木育体験者へのアンケートの実施(東京都新宿区)
- ・木育推進委員会の開催(2回)

② 誕生祝品ウッドスタート

出生届を提出された家庭に向け、誕生祝い品を贈る事業を開始。2年目となる東京都新宿区は、約2000名の新生児の生まれた家庭に木製玩具を届けた。また、長野県伊那市、岐阜県美濃市でもおもちゃの配布が始まった。特に美濃市ではおもちゃの制作を地産地消にこだわり、また常設の「みの赤ちゃん木育ひろば」が設置されるなど、持続した木育活動が展開できる基盤が整った。それ以外でも、2013年度からスタートする沖縄県国頭村、熊本県小国町、福島県飯舘村でもおもちゃの選定が始まり、順次準備が進められた。



③ 木育拠点整備

東京おもちゃ美術館内に設置した「赤ちゃん木育ひろば」を、さまざまな地域で設置される子育て支援施設等に広めるために、デザイン、玩具購入、人材育成方法等、ハード面ソフト面を合わせたパッケージとして普及に努めた。具体的には岐阜県美濃市の「みの赤ちゃん木育ひろば」、福島県会津若松市の「赤ちゃん木育広場・もくれん」などがオープンした。また東京おもちゃ美術館初の姉妹おもちゃ美術館となる「やんばる森のおもちゃ美術館」の準備や企業との連携の準備を実施した。詳細については2013年度活動計画参照。夏には木育サポーター養成講座も開催した。

10. 東日本大震災被災支援「あそび支援隊」

担当理事: 多田千尋 / 多田純也 / 曾我部晃

昨年度に引き続き、被災地支援活動を行った。具体的には福島県内において2つの取組を行った。

① 飯舘村・木育キャラバンの実施及びウッドスタート支援

かねてよりつながりのある福島県飯舘村に対して、10月に「飯舘木育キャラバン」を実施した。今なお全村避難を強いられているこの村が行った「文化祭」に招かれ、2日間キャラバンを展開したほか、おもちゃについては、そのまま子どもたちが活用できるように寄贈した。さらに来年度から、飯舘村民として誕生した赤ちゃんに対して、木製玩具をプレゼントする事業を行うべく、準備を進めた。

「木育キャラバン in 飯舘」

日程: 10月7~8日 会場: 福島県文化センター(いいたて村文化祭内)



② 会津若松・「赤ちゃん木育広場 もくれん」

福島県浜通りから会津若松市に避難してきている赤ちゃん向けに、地元NPO法人ロータスが室内遊び場を設置した。この取組に対して、「あそび支援隊」としても全面的に協力し、施設の全体監修及びおもちゃの選定、スタッフ研修などを行った。3月7日のオープンの際には、おもちゃコンサルタント5名とともに、参加し、遊びの場と時間を提供した。



③ 活動支援金について

A: 2011年度からの繰越額 1,661,483 円

B: 2012年度収入 935,843 円 C: 2012年度支出 976,426 円

→ 2013年度への繰越額 1,702,066 円 (A+B-C)

11. その他

国際交流活動、今年はフィリピンへ
おもちゃコンサルタント活動が世界へ広がる

・国際交流基金との連携

フィリピンのNGO「AGAPP」(現地タガログ語で「手遅れにならないうちに何かを始めよう」の意。会長は現アキノ大統領の実姉)の依頼を受けた「地球ボランティア協会」より、フィリピンの児童教育拡充に向けての「希望の窓プロジェクト」におもちゃの専門家を派遣できないかとの要請があった。これを受けて参加希望者を公募及び選考を行い、3名のおもちゃコンサルタントを派遣。11月にマニラ、セブの2カ所で、幼稚園教員向けの折り紙、竹細工等のワークショップ、現地の子どもたち向けのデモンストレーション等を行った。これらの活動は、フィリピン国営テレビでも放送された。

